

教育者としての「使命感」・「人間愛」・「創造力」を有する教員の養成を目指す

2017

春

No.36

JUEN

【ジュエン】

Joetsu University of Education

国立大学法人
上越教育大学
Joetsu University of Education
学園だより

【特集】

もっと身近に!

附属図書館





上越の野上で

植物の暮らしを見つめています

研究室

へようこそ

賢者の知恵に学ぶ

植物生態学の研究をしています。平たく言えば、植物の生き様を調べています。現存する植物はみな、何億年もの間、生物どうしの競争を勝ち抜いてきた、進化の覇者です。さればこそ、どの植物も何らかの生き残り戦略をもっているに違いありません。その戦略を見抜き、有効性を分析するのが私の仕事です。進化の時間スケールで見ると、植物はまるで、自身の生き方を問い続ける賢者のように感じられます。そのせいか、つい私は、植物のことを指して「彼が」とか「彼女が」と言ってしまう、笑われることがあります。

雪と森が育む植物の不思議

この大学に赴任してからは、雪と森と植物の関係に興味をもっています。上越地域を含む冷温多雪な北日本では、森林の下層植物の一部が大変化しています。例えば、大学構内にも見られる「オオウバユリ」という植物は、開花時に高さが2メートルを越えることがあります。ところが、関東や西日本に分布する「ウバユリ」

谷 友和 (たにともかず) 自然・生活教育学系 講師

専門は植物生態学。神奈川県相模原市出身。平成16年に北海道大学大学院地球環境科学研究科を修了し、博士(地球環境科学)を取得。富山大学極東地域研究センター非常勤研究員、東京大学理学系研究科附属日光植物園非常勤技術補佐員を経て、平成21年4月に上越教育大学に講師として着任。太平洋側の生まれですが、北国を転々としたせいで、上越の積雪はそれほど苦になりません。



今は今しかない！
いつも全力で！

私は、上越教育大学在学中に本当にたくさんの魅力あるものに出会いました。その経験の全てが私の宝物です。

声楽について

私は大学に入学し、学びたいことの1つとして「声楽」がありました。本来、コースが決まるのは学部2年、ゼミが始まるのは学部3年です。けれども、私は、待ち切れずに、先生にお聞きして、レッスンをしていただき、学部1年から声楽の勉強を始めることができました。「声楽を勉強したい」という思いのもと、勇気をもって先生に尋ねに行き本当によかったと思っています。初めての声楽でしたが、先生から声楽の新たな世界を教えてください、先輩方からたくさんの刺激をいただき、練習するのがとても楽しかったです。人前で歌う経験をいただけたことも、とても大きなことでした。大学生活はもう終わってしまっていますが、これからも声楽の勉強を続けていきたいです。

吹奏楽団について

私は、4年間、吹奏楽団に所属していました。振り返ってみると、全年度、全てがよい思い出ですが、自分たちが中心となって部を引っ張った学部3年時は特に思い出があります。みんなで心を合わせ、充実した楽しさを共有できた日々は忘れられません。みんなが演奏会成功のために案を出し合い、今いる仲間全員と、今しかできない舞台を創り上げることができました。大学生活の中で夢中になれる部活・仲間を見つけられて本当によかったと思っています。

今後について

声楽の勉強も続けたい、舞台関係のことをもっとやってみたい…。やりたいことがたくさんあった私ですが、小学校実習での経験が決め手となり、小学校教諭になることを決めました。教師になっていくこれからも「今」を大事にし、やりたいことを毎日全力でやっていきます。

学部4年
芸術系コース(音楽)
森田 真衣 さん

という近縁種は、もっと小型で、ひさ丈ほどの高さには成長しないこともあります。このような大小関係を示す植物の組が他にもあり、私は勝手に「北方大型化症候群」と名付けています。北方大型化は、彼らが北国で身につけた生き残り戦略の一つだと考えています。なぜ雪国で育つと大きくなるのか？なぜ薄暗い森の下層で大きくなるのか？凡人の私は、賢者の戦略に翻弄されつつ研究を進めています。

自然を感じる心を磨こう

私の研究室では、野生植物の生態研究や、植物の成長や光合成などを題材とした教材研究を行っています。研究室の学生には、野外調査や畑作業、野外散策等のゼミ活動を通じて、植物を肌身で感じる体験を積み、自然に対する感性を磨いてもらいたいです。自然への理解や関心が深い教員ほど、子どもたちに生物について学ぶことの楽しさをうまく伝えられるのではないかと思うからです。

各スペースの紹介

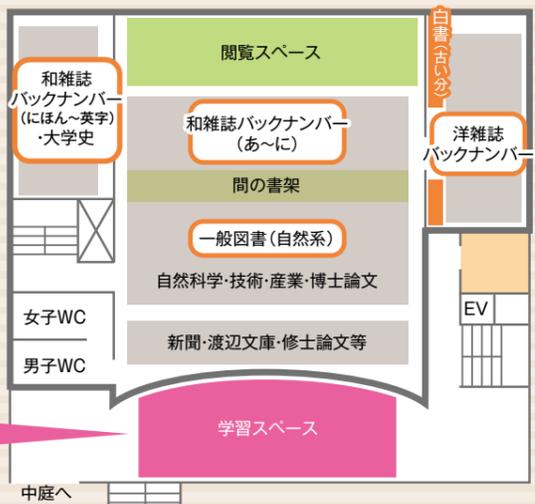
年度末にレイアウト変更等を行ったスペースをご紹介します。

1F

NEW

ライブラリーホール

曲線の衝立にホワイトボードが一体となったユニークな学習空間ができました。中にはテーブルや椅子があります。いろんなアイデアが生まれそうです。グループ学習等にぜひご利用ください。



NEW

情報交流ゾーン

可動式テーブルや椅子、電子黒板やプロジェクター等を追加し、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業や学習ができるスペースが広がりました。ワークショップ、研修等にもご利用ください。また、授業や学習の際、すぐに利用できるように、これまで各フロアーに分散していた教科書を2階に集中配架しています。参考図書、英語多読用図書、本学教員著書等も近くに配架されていますので、一緒にご利用ください。

NEW

ネーミング募集! (現リフレッシュゾーン)

リフレッシュゾーンに新しいテーブルと椅子が入りました。学習や研究の合間に、ゆったりとしたスペースでリフレッシュしてください。また、すぐそばには雑誌の最新号を置いてありますので、くつろいでご覧ください。

2F



NEW

2階入退館ゲート前廊下

衝立でしきられた、おしゃれなスペースができました。通りがかりの方が気軽にディスカッションに参加できるスペースとなっています。

ネーミング募集!

学生の声

田村 正人
大学院2年
学校運営リーダーコース

私の図書館の歩き方を紹介します。書店と同様、図書館に入ったらず新刊をチェック。情報はすぐに古くなるので私の日課です。その後雑誌コーナーで関心のある数冊を斜め読み。3階へ上がり気になる本を探していると、偶然ほかの本にも出会います。頁をめくと1時間なんてあっという間。図書館は研究にも学習にも最適です。

3F

NEW

視聴覚ゾーン

視聴覚資料とともに、2つのブースを3階へ移動しました。静かな環境で館内の視聴覚資料を利用できるようになりました。



もっと身近に!
特集 附属図書館

キャンパスの中央に位置する附属図書館では、教育に関する資料を中心に幅広く備え、学習・教育・研究をサポートしています。また、本学の学生・教職員だけではなく、卒業生・修了生のほか地域の現職教員の方々や住民の方々にも自由にご利用いただいています。



附属図書館長 廣瀬 裕一

本学の学生1人当たり貸出冊数(H26年度27.7冊)は、学部・大学院がある国立大学の中で第1位! 貴方もたくさん本を借りよう。

利用案内

附属図書館では、多くの資料と多様なスペースとサービスを提供しています。(各項目をご参照ください) 資料の利用とともに、授業前、授業後の学習、論文作成のための文献収集や、グループでのディスカッション、教養を身に付けるための図書館主催の講座等への参加、研究の合間のリフレッシュ等に図書館をどうぞご利用ください。資料、サービスその他について、ご不明な点は、お気軽にカウンターへお尋ねください。附属図書館は、卒業、修了後も利用できます。

基本情報 (平成28年4月現在)
上越教育大学附属図書館
階数:3階 サービススペース:1,795㎡(約1,000畳)

閲覧席数	196席
蔵書数(図書)	363,930冊
雑誌の年間受入タイトル数	709タイトル
電子ジャーナル提供タイトル数	約7,200タイトル
リポジトリ登録論文数	2,640件
休館日	年末年始やセンター試験日など。詳しくは附属図書館ホームページをご覧ください。(http://www.lib.juen.ac.jp/)
開館時間	平日 9:00 ~ 22:00 (休業期間中は9:00~17:00) 休日 11:00 ~ 17:00 (冬期休業期間中は閉館)



教科書

小中学校教科書

最新版から昭和60年頃までのほぼ全科全学年全出版社のものを揃えています。教師用指導書は上越地域で利用されているものだけ、収集しています。



2階にあります。

高等学校教科書

上越市内の高校の普通科で使用されている教科書の一部を所蔵しています。



3階にあります。

修士論文

開学以来の修士学位論文を所蔵しています。1階に学籍番号順で並べてあります。蔵書検索(OPAC)では論題や著者名でも検索可能です。

貸出はできませんが、館内閲覧は開館中いつでも可能。著者の許諾のとれたものはコピーもとれます。また、ごく少数ですが、「上越教育大学リポジトリ」で学内ネットワーク限定公開されている論文もあります。(↓詳しくはP9へ)



1期生の論文を開くと、なんと手書き! パソコンで打っても大変なのに... 当時の苦労がしのべられますね。

放送大学教材

放送大学大学院教材

放送大学教材とは、放送大学の授業で使用しているいわゆる教科書のことです。毎年度、新規発行されるものを全て購入しています。

置き場所は、2階最新号雑誌架の奥です。古いものは、通常の図書と同様に各分類番号(背ラベル)のところにあります。



教科書なので、分かりやすく記述されています。タイトルも科目名なので、内容が直接分かりやすい。

昔の教科書

戦前(昭和24年まで)の教科書(復刻版含む)



3階にあります。(背ラベルの記号 375.9)



貴重書

高田藩記録

高田藩榊原氏時代の諸種記録を年代順にまとめたもので、御用留、日記、覚え書風のものなど享和元年から明治初期までをカバーする177冊を収めています。上越教育大学リポジトリから本文を公開しています。(↓詳しくはP9へ)

黄檗鐵眼版一切經

江戸初期に高僧鐵眼道光の手により発行された佛教聖典の集大成「黄檗鐵眼版一切經」の完揃(全2、094冊)。新潟県中頸城郡三和村の旧家(宮崎家)に蔵されていたもので、昭和61年に本学に寄贈されました。

渡辺文庫

上越市に在住した郷土史家、故渡辺慶一氏の旧蔵書で、主として日本史、地方史関係図書及び古文書類2、266冊。昭和61年より数次に分けて本学に寄贈されました。古文書類は現在、上越市公文書センターで所蔵しています。

現物は特殊資料室で大切に保管しています。



ペスタロッツ コレクション

近代教育を開拓し、教育を人間化した歴史上最高の教師といわれたペスタロッツの著作18点、全集7点、そして研究書123点の計148点のコレクションです。

ドイツ史の中のプロイセン

18世紀から19世紀にかけて、統一ドイツ形成の中核となったプロイセン王国の政治、法政、経済、社会、教育など広範な領域にわたるオリジナル文献集成全742冊。

雑誌・新聞

所蔵雑誌の多くは学術雑誌で、書店ではあまり見かけません。学会の出す学会誌と、大学や研究所の出す紀要があります。論文には発表から年数が経っても価値があり、古い号も合冊製本して保存しています。

教員採用試験受験者向けの雑誌や音楽情報誌など、数は少ないものの一般雑誌もあります。最新号雑誌架をぶらぶらしてみると楽しいですよ。地域情報誌などはカウンター前にあります。

雑誌は最新号が2階、バックナンバーと紀要類が1階にあり、誌名(紀要類は発行機関名)の五十音順に並んでいます。

新聞はカウンターにあります。日刊紙は全国紙・地域紙・英字紙・スポーツ紙で充実の9紙。朝日新聞と新潟日報は、記事を検索できるデータベースも使えます。(↓詳しくは次項へ)



電子ジャーナル・データベース

電子ジャーナルとは、雑誌記事や論文を電子化し、インターネット上で本文を読むことができるものです。インターネットで本文が読めるといっても、多くの電子ジャーナルは有料で、大学(図書館)で契約をしないと読めません。

本学では、ScienceDirect(エルゼビア社)、WileyOnlineLibrary(ワイリー社)、EBSCOhost(エプスコ社)が利用できます。また、データベースとは、多くのデータを整理、蓄積し、必要な情報を効率的に検索できるようにしたものです。本学では、聞蔵IIビジュアル(朝日新聞)、新潟日報記事、DI-Law.com(第一法規情報)、MathSciNet(米国数学会)の利用ができます。本学教職員、学生・院生以外は利用できないものもあります。ご利用は附属図書館ホームページから。使い方がわからない場合は、お気軽にカウンターへご相談ください。(個別にガイドンもできます)



学生の声

矢野 広大
学部2年
自然系コース(理科)

模擬授業の前に教科書を参考に
して学習するために使っています。
教科書が豊富にそろっているため、
授業の計画を立てるときは本当に便利
です。情報交流ゾーンでは会話が
できるため、いつも友達と一緒に相
談しながら学習しています。また、
PCもあり、インターネットを使う
ことができるため、様々なことを調
べたいときは最適な場所です。

Point 4 ICT機器

附属図書館には、ICTを活用したアクティブ・ラーニングや授業ができるよう、Apple TVを介して映像を投影できる固定式プロジェクタやホワイトボードとしても書き込めるスクリーン、大型液晶の電子黒板、書画カメラ、デジタル教科書の入ったパソコン、可搬型プロジェクタ、iPad、タッチパネル搭載のテーブルなど、さまざまな機器・仕器が整備されています。固定式プロジェクタでは複数のMacやiPad等からの映像を切り替えて投影できるなど、グループ形式のアクティブ・ラーニングや授業で使いやすいものとなっています。また、全館でWi-Fiが使えますので、どこでもインターネットを利用できます。色々な機器を使ってみて、新しい使い方を発見してみたいはいかがでしょうか。



書画カメラを電子黒板に投影した様子。書画カメラは手元の小さなものを拡大投影できるので、小さな本の読み聞かせをする際や、手元を生徒に見せる際にも便利です。

色々ありますので、
何でもカウンターに
聞いてください!



図書館での授業の様子。中央に教員がいて、周りでグループディスカッションする形式の授業をしています。

Point 1 図書館資料リクエスト

本学学生は附属図書館に置いてほしい資料をリクエスト
できます。

学習や教養に資する資料の推薦をお願いします。

用紙は、図書館掲示板、図書館2階、図書館ホームページ
にあります。注意事項をよく読んでリクエストしてください。
また、マイライブラリのOPAC TOPからの結果一覧画面にあ
る「レビューを見る」から推薦理由
を見ることができます。



もっと活用!

5つの ポイント



Point 2 「月曜〇〇講座」

「月曜〇〇講座」とは、学生の学習支援を目的とした学習講座です。授
業期間中のほぼ毎週月曜日に、情報交流ゾーン(アクティブ・ラーニング
スペース)で、みなさんの「学び」に役に立つ講義や演習を行っています。

講座で配った資料の一部は上越教育大学リポジトリからダウンロードで
きます。また、「月曜〇〇講座」で「こういう講義をやってもらいたい!」、
「こんなことが知りたい!」などがありましたら、お気軽に図書館へご連絡
ください。今後も皆さんのご意見・ご感想を反映させて、より良い「月曜
〇〇講座」を目指します。

Point 5 リポジトリ

本学で発行している紀要類や、本学の先生が学
会誌に投稿した論文のうち、著者と発行元の許諾
がとれたもののPDFを「上越教育大学リポジトリ」
(<https://juen.repo.nii.ac.jp/>)で無料公開しています。

有料の電子ジャーナルやデータベースとは違って、
いつでもどこからでもアクセスできます(学内ネッ
トワーク限定公開の修士論文は除く)。



図書館の専門職員が学習・研究を支援して
います。本の借り方から研究資料の探索まで、
まずは相談してください!



上越教育大学附属図書館

お問い合わせ先

電話 : 025-521-3606

FAX : 025-521-3609

mail : gservice@juen.ac.jp

URL : <http://www.lib.juen.ac.jp/>

Twitter : @juen_lib

Facebook : @juenlib

学外者の利用について

閲覧のみであれば年齢が18歳以上(高校生を除く)であること。
貸出の場合、年齢が18歳以上(高校生を除く)で、右記のいずれかに該当する者。

※閲覧、貸出とも年齢が確認できる
身分証等をご持参ください。

- ① 上越市・妙高市・糸魚川市・柏崎市の在住者又は在勤者
- ② 修了生・卒業生
- ③ 元職員
- ④ 新潟県立看護大学の学生・教職員
- ⑤ 中央農業総合研究センターの研究員
- ⑥ 放送大学新潟学習センターの学生

Point 3 選書ツアー

選書ツアーとは、本学学生、教職員のみなさんが、一般の書店へ行っ
て附属図書館に揃えたい本を選ぶ企画です。経費は、図書館持ちです。
なんてラッキー! 同じ学生が選んだ本だからでしょう、選書ツアーで購
入した本は、毎年よく借りられています。



学生の声

堀内 裕加
学部4年
自然系コース(数学)

実習前や実習中に図書館をよく利用しま
した。必要な資料がそろっているの
で、図書館のスペースで友だちと相談
しながら進めることができました。ま
た、専門的な本を利用するだけでな
く、最近は読み物の図書が増えてき
てきたため、日常でも利用するよう
になりました。選書ツアーにも参加し
、さらに図書館に足が向くようにな
りました。

突撃! 寮生のお宅訪問!!

質問 Question

- 寮生活であると便利な物
- 寮で良かったなと思うこと



日吉 亜美
学部3年
臨床心理学コース

回答 Answer

- 寮に住むなら、冷蔵庫、電子レンジ、除湿機は必須ですね。1人寂しい人は、TVがあるといいかも! 笑
- 寮は、気軽に友達部屋に遊びにいけるので、楽しいです(*´▽`*)



神山 夏実
学部1年
A1クラス

回答 Answer

- 1・2階の人は除湿機
- 大学に近いから空きコマに家に帰ってこれる。寝坊しても友だちが起こしにきてくれる



伊藤 達成
学部1年
A4クラス

回答 Answer

- ちゃんとした棚みたいな収納家具
- 仲間が近くにいる、部屋にきてくれること



木村 有里
学部1年
D2クラス

回答 Answer

- エアコンの設備欲しい笑笑
- 友達がたくさんいるから寂しくないこと(^◇^)



土田 あすか
学部1年
B1クラス

回答 Answer

- 電子レンジ 窓用エアコン
- すぐ誰かと会えること 楽に部屋を行き来できること



松川 雄哉
学部1年
B3クラス

回答 Answer

- トースター機能付き電子レンジ
- 授業ギリギリまで寝られること!



写真はI型(個室/約6畳)。
II型(個室/約12畳/女子棟の一部のみ)もあります。

単身用学生宿舎(男子棟・女子棟)

各居室には、机、椅子、ベッド、ロッカー及び内線電話(無料)等が備えてあります。
(室内に水道、ガス設備はありません。)
希望により外線電話(有料)及びインターネット(有料)も利用できます。
また、各階には、補食室、洗面・洗濯室及びトイレがあり、浴室は男女各2室あります。このほか、安全管理のため学生証を各玄関のカードリーダーにかざして入館します。



今回様々な人の部屋を見てみて、部屋には人それぞれ個性が出ていて面白いなと思いました。私も見習って部屋を綺麗にしようと思いました(笑)。突然のお願いに快く取材を受けてくださった皆さん、本当にありがとうございました。

編集後記

- 越坂 亜美 学部1年 B1クラス
- 宮崎 華帆 学部1年 B1クラス
- 茂木 健太郎 学部1年 D2クラス
- 村松 慶孝 学部1年 C2クラス



硬式テニス部

楽しさと勝負、2つを求めて

硬式テニス部では週2回、外部のコーチと共に練習を行っています。練習は男女混合で行っています。部員には、初心者から実力者まで幅広くいますが、全員テニスが好きという思いを持っています。大学対抗の団体戦と春・夏・秋の個人戦といった公式戦だけでなく、他大学との練習試合も行っているため、試合が多くできる環境にあり、日々の練習へのモチベーションを高めることができます。その他にも、部内戦やミックスダブルスなど楽しく本気になれる企画もあります。試合で勝つことだけでなく、テニスという競技を通して1人1人の人間性を高めることができたらよいと考えています。

チームで戦う大学対抗団体戦「王座」

テニスは個人スポーツというイメージがあるかもしれませんが、大学テニスはチーム戦です。王座と言われる、夏にある大学対抗の団体戦ではダブルス3本、シングルス6本の計9本で戦うためチームとしての総合力が問われる大会です。夏の暑さの中、同じ練習を頑張った仲間全員で円陣を組み、仲間の試

合を全力で応援し、チームで喜びを分かち合うことができるのは特別な瞬間です。この大会を目標に部として一丸になり、お互いに切磋琢磨しています。自主練を行う人や朝練を行う人がいるなど、部員の意欲が高いことが自慢です。これからも日々の練習で己を磨き、お互いを高め合い、絆を深めて、最高のチームを目指していきます。



DATA 平成29年1月現在
 部員数/26人
 活動日/毎週土曜日、日曜日
 活動場所/上越教育大学テニスコート
 活動実績/北信越大学対抗テニス王座決定試合
 男子3部 2位
 女子3部 優勝

【取材協力者】
 学部3年 自然系コース(理科)
 高橋 瞭介

書道部

部員のほとんどが書道初心者

部員のほとんどが大学から書道を始めています。週2回の書道部の練習を中心に4月の春の色紙展覧会、8月のオープンキャンパス作品展、夏合宿、9月には上越市展への出展、10月の大学祭作品展、3月には卒業展覧会に取り組んでいます。年間を通して、作品を手掛けています。

いつも明るい空間

書道部の活動は、いつも明るく楽しい空間です。そんな書道部の活動で欠かせないのは、顧問教員である押木先生存在です。書道への熱心な姿勢を背中示し、なにより部員1人1人に対して丁寧な指導をしてくれます。そしていつも明るく楽しい空間を作ってくれるのです。我々書道部が学年を越えて気軽に接し合えるのは、押木先生存在がとても大きいです。

そんな書道部の部員の交流は部活動だけではなくありません。夏合宿では書道以外のレジャーも充実しており、部員の仲はとて素晴らしいです。

1年間の大きな変化

書道部では1年間を通して、何枚もの作品を仕上げ、その1枚の作品のために多くの紙を使って練習をします。夏には長野県の志賀高原で合宿を行い、仲間とともに書道に浸ります。冬には書道部の集大成である卒業展覧会で熱が入ります。さまざまな活動で、不思議と部員それぞれの「書」が大きく変化します。この経験した成果が部活に取り組む活力になっています。

書道部で活動することで、丁寧できれいな字を書くことが必ずできるようになります！興味のある方はぜひ見学に来てください。



DATA 平成29年1月現在
 部員数/学部生22人
 活動日/毎週月曜日、木曜日
 活動場所/第2講義棟202
 活動実績/オープンキャンパス・文化祭展示、上越市展出品、卒業展覧会開催

【取材協力者】
 学部3年 自然系コース(数学)
 峯村 祥太



上越教育大学 附属中学校

附属学校だより

桜城文化祭

附属中学校では、これからの時代に求められる6つの資質・能力を独自に提唱しています。その資質・能力(情報統合力・代替思考力・企画創造力・主体的実践力・コミュニケーション力・コラボレーション力)を育成するため、グローバル人材育成科を新設しました。桜城文化祭は、グローバル人材育成科のコンテンツの一つで、今年度は2日間、開催しました。

大盛況でした。中学校で行われた2日目のおもてなしイベントでは、「Give Happiness」をテーマとし、生徒は来校者参加型のイベント担当や食品販売担当、清掃担当に分かれて取り組みました。バルーンアートで活躍される地域の方からレクチャーを受けたり、食品販売では地域の商店街の方とコラボレーションしたり、様々な連携が実現しました。緻密な事前準備と多くの方々の連携によって、これまでにない大規模なイベントとなりました。



PTAきささげコーラス



生徒の指揮による各クラス合唱

会場・上越文化会館
 11月24日(木)
 秋の合唱コンクール



清掃担当の活動



桜城ライブ

会場・附属中学校
 11月26日(土)
 おもてなしイベント
 PTA作品展
 桜城ライブ



マスコットキャラクター「ふぞくま」

たつのちとし
辰野千壽教育賞授与式を
挙

平成28年9月30日(金)に「第9回辰野千壽教育賞」授与式を挙

最優秀賞1名、優秀賞1名に賞状が授与される
とともに、副賞が贈呈されました。
最優秀賞を受賞した藤澤憲氏(和歌山県立和歌山さくら支援学校教諭)のテーマは「特別支援学校におけるスヌーズレン教育の有効性と可能性」授業実践の三項関係と手作りスヌーズレン環境の創造に視点を当てて」というもので、専用のスヌーズレンルームや高価な機材を使わず、手作りの学習空間でも子どもの情緒安定やコミュニケーションの向上などに効果があることを明らかにしており、今後の発展性が期待されるものと高く評価されました。



優秀賞の加藤司氏(秋田県立横手清陵学院高等学校教諭)のテーマは「探究型学習による、社会の一員として他者とかかわりながら共に向上する生徒の育成」というものでした。
同教育賞は、平成20年度に創立30周年を記念し、初代学長である辰野千壽氏の長年にわたる教育・研究業績の精神を受け継ぎ、我が国の教育に多大な影響を与えられた教育・研究の振興に貢献するため創設され、9回目となる今回は、応募総数18件でした。

●最優秀賞



藤澤 憲氏
(和歌山県立和歌山さくら支援学校教諭)

【テーマ】特別支援学校におけるスヌーズレン教育の有効性と可能性
～授業実践の三項関係と手作りスヌーズレン環境の創造に視点を当てて～

このたび、栄誉ある辰野千壽教育賞最優秀賞を受賞できましたことを大変嬉しく光栄に思っております。

本研究主題にあります「スヌーズレン」とは、視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚などを適度に刺激する多重感覚環境の中で利用者(授業者)と環境との三項間の相互作用を主とした活動です。1970年代中頃、オランダの重度知的障害者の施設において、利用者のリラクゼーションを主としたレジャー環境から始まり、現在では世界中の福祉施設や学校、病院、個人宅などで様々な障害者や病気のある人々、高齢者などを対象としたレクリエーションや教育・セラピーの方法として広く活用されています。

今回の研究を通して、専用のスヌーズレンルームや代表的なスヌーズレンの器材がなくても、学校の学習空間をいかして工夫すれば、子どもの情緒の安定やコミュニケーションの向上、カウンセリングへの応用など効果的なスヌーズレンの実践が可能であることがわかりました。まだまだ多くの課題はありますが、今後もスヌーズレン研究の探求とともに教育の可能性が豊かにひろがっていくように歩んでいきます。

●優秀賞



加藤 司氏
(秋田県立横手清陵学院高等学校教諭)

【テーマ】探究型学習による、社会の一員として他者とかかわりながら共に向上する生徒の育成

第9回辰野千壽教育賞優秀賞をいただきましたこと、心から感謝いたします。そして、横手清陵学院中学校・高等学校関係者の皆様、地域の皆様、一緒に学習に取り組んだ生徒たちに心から感謝いたします。

私は、地域の課題解決をテーマにした探究型学習に準備を含めて12年間取り組んできました。その中で生徒たちは、身につけた能力や学習成果を地域で公開し、地域の皆様からの感謝や応援を得て、自らの能力そして社会の一員としての人間性を高めていました。

今回の受賞を励みに、今後も探究型学習を通じて生徒たちの能力および社会性の向上に励むとともに、多くの先生方の参考になるよう実践を深めて発表していきたいと思っております。

教員研修センターと
連携協力協定を締結

上越教育大学は平成28年12月19日(月)、独立行政法人教員研修センターと連携・協力に関する協定を締結しました。

この協定は、上越教育大学と教員研修センターの連携協力の下、教員の研修に関する諸課題に的確に対応することを目的とするものです。

このほど霞山会館(東京都千代田区)で行われた締結式には、来賓として文部科学省から柳澤好治教員養成企画室長、佐瀬宣次教職員課課長補佐を迎え、教員研修センターから高岡信也理事長他4名、上越教育大学から佐藤芳徳学長他3名が出席しました。

佐藤学長から「この協定により両機関のネットワークがさらに強固なものになり、現職教員の研修がさらに充実していくことが期待される」と挨拶があり、今後は、具体的な連携協力事項について検討していくこととしています。



高岡教員研修センター理事長(右)と佐藤上越教育大学学長(左)

「糸魚川大火の被災児童への
学習支援」を実施

上越教育大学では、平成28年12月22日(木)に発生した糸魚川市の大火翌日に、学生による被災地ボランティア団体「ABJ(Action BY JUEEN)」の代表メンバーが現地に入り、糸魚川小学校、糸魚川中学校及び糸魚川市教育委員会に被災児童に対するボランティアの申し出を行いました。年が明けてすぐに教育委員会からの要請があり、被災児童たちに対する心のケアを含めた学習支援やお楽しみ会支援のボランティア活動を行いました。ボランティア活動の中心になったのはABJのメンバーとその呼び掛けによって集まった他大学の学生たちや学校ボランティア支援室の呼び掛けによって集まった大学院生たちです。また、このボランティア活動には上越地域学校教育支援センター(JSIRC)からも人的、物的な支援を得ています。



1月5日(木)と6日(金)は、冬休みの宿題や書き初めなどの学習支援とゲームやお菓子を食しながらの雑談による交流会を行いました。はじめは、固い表情だった子どもたちも学生たちの活動によって、すぐに打ち解け活発な活動を行うことができました。1月8日(日)は、地域のボランティアの方も交えての子どもお楽しみ会に参加しました。お餅での昼食をほさんでゲームやミニコンサートなどもあり、たっぷり一日子どもたちと遊ぶ活動を行いました。今後も日曜日ごとにお楽しみ会が行われるということでボランティア参加を継続する予定です。

「上越教育大学基金」
ご寄附のお願い

上越教育大学では、法人の財政基盤の強化を図るとともに、独自の学生支援や教育・研究活動支援等の諸事業を推進し、本学の教育・研究機能の強化と魅力づくりに努めることを目的に「上越教育大学基金」を設置しています。
企業、団体、個人のみならず、ご支援をお願い申し上げます。

- 基金が行う事業**
- 学生支援事業
 - 国際交流支援事業
 - 教育研究支援事業
 - 地域貢献事業
 - 附属学校整備事業
 - キャンパス環境等整備支援事業
 - その他法人の諸活動支援事業

税法上の優遇措置

- 個人の皆様からのご寄附
所得税控除等を受けることができます。
- 法人の皆様からのご寄附
寄附金の全額を損金に算入できます。

ご寄附のお申込み

- 振込用紙によるご寄附
上越教育大学基金のホームページ「寄附申込フォーム」より、振込用紙をご請求ください。
- 現金によるご寄附
現金でのご寄附を希望される方はお手数ですが、お問い合わせ先までご連絡ください。

お問い合わせ先

上越教育大学総合交流推進室
(上越教育大学広報課内)
〒943-8512
上越市山屋敷町1番地 上越教育大学事務局(2階)
TEL: 025-521-3255
FAX: 025-521-3927
E-mail: kikin@juen.ac.jp

修了生からの
お便り



子どもと共に 生きる・つくる

「ここ、20年以上も打ってあるよ」「意味ないね」「打ちやすい場所だから楽しくていっぱい打っちゃったんだね」。2年半前の「あの日・あのこと」が子どもたちの生きる「いまここ」に駆けつけてきた瞬間です。ヤギ(ゆめちゃん)との暮らしをつくってきた子どもたちは、3月、ゆめちゃん小屋を解体しました。お別れの日に向けての準備です。板に十分すぎるほど打ち込んである釘を一本一本抜きながら、子どもたちはゆめちゃんのためにと懸命に打ち込んだ時の出来事とその経緯(いきさつ)を語りだしたのです。それは、自己の育ちを自覚し、今を確かに「生きる」子どもの姿と言えるでしょう。

子どもは、この瞬間瞬間を精一杯生きています。これらの積み重ねが子どもの生きる今をかたちづくり豊かにします。子どもを目の前に私たち教師が為すべきこと。それは、子どもを感じ、聴き、この子にとっての今を充実した「瞬間」となるよう保障することではないでしょうか。そうすることで、教師もまた子どもと共にかげがえのない今ここを「生きる」ことができると思うのです。

上越教育大学大学院で学ばせていただいていたから早14年が経ちます。しかし、

今も尚色あせることなく私の身体を貫いている(であろう)「思い」の根源は当大学院での学びにあります。子どもと共に歩む営みのなかで、大学院時代の「あの日・あのこと」がどれほど私の身体に駆けつけてきたことでしょうか。その都度、西野範夫先生・松本健義先生の語りや同ゼミ仲間の言葉の意味を問い直し、ほんの少しに違いありませんが自己を更新できた気がします。貴重な2年間でした。今後も続くであろう教師人生。謙虚に、真摯に、子どもと共に「生き」へ「学び歩む」こと。この2年間への感謝の意を届けていきたいと思えます。



池上 浩人
(いけがみ ひろと)

長野県出身。平成14年度学校教育研究科修了後、長野県内の小学校(信州大学教育学部附属長野小・伊那市立伊那小)の教諭を経て現在(木曾町立日義小学校教頭)に至る。

専攻コース院生会員への補助事業

「うむ」院生展2016」上越教育大学大学院芸術系教育実践コース(美術)大学院1年 家崎萌

教科・領域教育専攻芸術系教育実践コース(美術)大学院1年 家崎萌

2016年12月1日(木)～12月4日(日)に、上越教育大学大学院学校教育研究科教科・領域教育専攻芸術系教育実践コース(美術)有志による展覧会を、大学院同窓会より補助金をいただき、町家交流会館高田小町(上越市本町6丁目)にて開催いたしました。

本展覧会は毎年美術コースの大学院1年生が中心になって企画運営されます。今年度は、留学生や社会人、ダンス、地学など、異ジャンルからバラエティに富

んだメンバーが集まったことからテーマを「うむ」とし、自己の制作の質を高めるだけではなく、互いの違いをぶつけ合い、新たな価値を生み出すことをコンセプトとしました。

第一会場である多目的ホールでは、彫刻や絵画など専攻分野の研究やアカデミックな取り組みについて分かりやすく展示を行いました。また、図版を積極的に取り入れたポートフォリオを自由に閲覧可能な状態に設置したことで、来場者か

らは個々の取り組みの方向性がよく分かる」と好評を頂き、来場者と制作者とのやりとりを増やすことができました。

第二会場の蔵ギャラリーでは、空間インスタレーションとして蔵全体をメンバー全員でプロデュースするというテーマのもと、天井まで届きそうな巨大彫刻を中心に珪藻化石の映像の投影、100枚の抽象画による壁面装飾で幻想的な空間を演出しました。

さらに、3日(土)、4日(日)には、大学院音楽コースの有志の皆さんとのコラボレーションとして、2会場全8公演のアートパフォーマンスも実施、蔵のアイパフォーマンズのための書き下ろし曲やバイオリンの生の演奏と合わせて行ったダンスパフォーマンスは、来場者からも「心が震えた」とご感想をいただきました。

今年度の院生展では、空間インスタレーションや音楽コースとのコラボレーションなど新たな取り組みに挑戦しました。来場者は4日間で154名。そこから得られた経験や、人、地域とのつながりが各自のさらなる目標へとつながる展覧会となりました。これからは自己の研究や制作の質に妥協せず、さらに開かれた美術分野の可能性を探求し、切磋琢磨して取り組んでいきたいと思えます。



修了生の住所等をお知らせください

転居・転職・結婚等により個人情報の変更があった場合は、お知らせください。詳細については、公式ホームページをご覧ください。

上越教育大学 同窓会

お問い合わせ先 上越教育大学大学院同窓会事務局
E-mail dousoukai@juen.ac.jp



夢と希望

菜の花は、春になるとどこにでも咲くくありふれた花です。しかし、そのあざやかな黄色は、遠くからでもはっきりわかります。一面に広がる菜の花畑は、春にふさわしい景観といえるでしょう。春は、活動的な季節です。学生の皆さんは、勉学や課外活動だけでなく、アルバイトにも頑張ろうとしていることと思います。

かつてスーパーの食品売場でレジ係のアルバイトをしていた学生が、話してくれたことがあります。明らかに小学生くらいの年齢の子どもが、一人では外を出歩かないような夜の時間帯に、お菓子や飲み物を買いに来る。日によつては、夕ご飯になるような弁当類を買うこともあり、とても気になるという話でした。その子にとっては、平凡な日常生活の一コマなのかもしれません。駐車場で親などの保護者が待っていて、単にお使いを頼まれているだけなのかもしれません。しかし、その学生が気になったように、

菜の花といふ平凡を愛しけり

富安 風生

長い冬が過ぎて、陽光うらかな春となりました。冬の寒さが厳しい地ほど、雪深い地ほど春の暖かさをよりいっそう感じるができます。また、春は明るい夢や希望にあふれる季節です。

子どもの行動に何か平凡でないものや日常的でないものを感じるアンテナのようなものの感度を高めておくことはとても大切なのではないのでしょうか。この話を聞いた後、平日の昼間、街で小・中学生を見かけると、とても気になるようになりました。お節介かもしれないし余計なことかもしれませんが、表情や挙動などを何気なくチェックするようになりました。

私たちは、ほとんどの人が平凡な暮らしをしています。平凡な暮らしの中にこそ夢と希望が必要であり、その夢に向かつて倦まず弛まず地道に努力する姿勢が大切です。教職は、平凡な職業なのかもしれません。しかし、国や地域の将来を担い国際化時代を生きる子どもたちを育て、子どもたちがそれぞれの夢に向かって努力することを支えることができる素晴らしい職業です。平凡な人生でもいい、いつも夢と希望を胸に、子どもたちから愛される教師となれるよう着実に一歩ずつ進まれることを、心より願っています。

学長 佐藤芳徳



退職教員から皆さんへ



自然・生活教育学系
教授 得丸 定子

プロフィール
1996年12月、講師として着任。助教授を経て、2006年4月、教授に就任。専門は家庭科教育。

第三の故郷

余命僅かと思った時、周りの風景は輝いて見えるとのこと。私はまだ20余年の命はあるつもり。上越を去らんとする今は空、風、建物も愛おしく感じています。輝いている第三の故郷を他所から祈り見守らせていただきます。



臨床・健康教育学系
教授 我妻 敏博

プロフィール
1988年11月、講師として着任。助教授を経て、2000年4月、教授に就任。専門は聴覚障害児教育。

聴覚障害児教育とともに歩んだ日々

本学で過ごした29年間、聴覚障害児の早期教育や言語能力の研究に携わってきました。人間が言葉を獲得する際の聴覚の役割の大きさを思い知らされる年月でした。教職員の皆様、院生の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。



人文・社会教育学系
教授 松田 慎也

プロフィール
1988年4月、助教授として着任。2008年4月、教授に就任。専門は宗教学。

— 今あるところを大切に —

「青い鳥」の物語ではないが、幸せは遠くにあるのではありません。身近な事柄のなかにこそあるのです。上越教育大学という今あるところを大切にしてください。申し上げたいのはただそれだけです。



自然・生活教育学系
教授 小川 茂

プロフィール
1987年8月、助手として着任。講師、助教授を経て、2013年11月、教授に就任。専門は細胞生物学、生物教育。

自然豊かな環境の中で

採用最終面接で6月初めに本学を訪れたとき、ハルゼミのなき交わす声に驚きました。それから30年、自然豊かな環境の中で研究や教育にとり組めたのは望外の喜びです。学生、教職員の皆様に心より感謝いたします。



学校教育学系
教授 丸山 良平

プロフィール
1990年4月、助手として着任。講師、助教授を経て、2007年4月、教授に就任。専門は乳幼児の遊び研究、保育内容の研究「環境」、保育内容の研究「人間関係」。

全身麻酔の覚醒経験から大学改革への期待

目覚めると私を覗き込む瞳がある。その光の奥にナース様の気遣いを知覚し自分は価値ある存在とを感じる。赤ちゃんは似た経験をして信頼と自己肯定感等を持つのでしょうか。さて本学は学生、教職員がこれらを持つ環境を保障しているか？ハラスメント防止はかけ声だけではいか？大学改革の第一歩はその実行からと確信しました。



人文・社会教育学系
教授 下西 善三郎

プロフィール
1988年9月、助教授として着任。1997年8月、教授に就任。その後、副学長を歴任。専門は日本中世文学。

緑と白の街に暮らして

まぶしい初夏の緑、きびしい冬の白。ここ上越の地は、緑と白の街である。なんとも鮮やかな、輪郭のくっきりとしたこの街に30年を過ごせて、幸いであつた。優秀で気立てのよい若い人たちに囲まれて、幸せな大学生活であつた。感謝の念に堪えない。学生諸君と大学のますますの発展を祈っています。不一。

インタビュー 大学院で輝く人

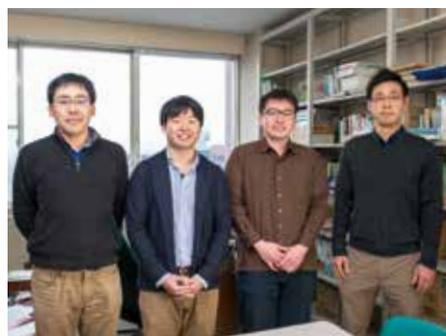
地域に関わる仕事を

大学卒業後、印刷会社に就職して営業や事務の仕事をしました。5～6年勤めたころ、高校時代の同級生が選挙に出ることになって、その手伝いをしたんです。最初は軽い気持ちでしたが、「地域に関わる仕事がしたい」と思って、会社をやめて本格的に関わるようになったんです。でも、私は政治に関わるようなガラでもなくて。そうしたら、周りから「学校の先生なんか向いてるよ」って言われて教師の道に気づきました。

今、上教大で実感していますが、子どもたちって地域の未来そのもので、接していると自分が生き生きできるのを感じます。いろんな仕事の人と関わって、自分にぴったりの仕事にたどりついた感じです。

ネパールでの出会い

大学院生活は最高に楽しいです。免Pなので1年生のときはたくさん授業をとりましたが、久しぶりに勉強に打ち込んで、本当に充実した時間でした。自学自習



で英語を勉強して、2年目はネパールで日本語教師のボランティアをしました。海外に行くとなんか幅が広がります。ホテルで一緒になったロシア人の作家と盛り上がりました。本を読んでいる人は会話を深みがあるって。英語も重要だけど、自分の母語で本を読むって大事です。

近代文学を学ぶ

今は詩人の萩原朔太郎の研究をして

います。短い詩の中に凝縮した思いを読み取るのが楽しいです。まだ理解は浅いですが、専門的な文学研究にふれられたのは財産です。会社をやめなければ経済的には安定してましたが、こんな経験はできませんでしたから。本物の学問にふれたり、いろんな人と出会ったりした経験は、教師としての自分の強みになると思っています。

大学院3年
言語系コース(国語)
今井政之さん

インタビューを終えて

今井さんは上教大に来るまでの経験を「回り道」と気恥ずかしそうにおっしゃってましたが、いろんな人と出会って、いろんな経験を重ねたうえで教師になることを選んだ重みを感じました。

■聞き手・文(写真左より)

人文・社会教育学系 講師 白岩 広行
(本人)

大学院1年 言語系教育実践コース(国語)
片桐 遼平

梅田 和将

免P = 教育職員免許 取得プログラム

本学大学院入学者で、教員免許を持っていない方や他校種、他教科の教員免許を取得したい方を対象に、長期履修学生制度を利用し、2年分の学費で3年間在学し、大学院の教育課程と学部の教員養成カリキュラムの単位を取得することにより、教員免許状取得の資格を得ることができるプログラムです。



アンケートにご協力ください

公式ホームページにおいて本誌に関するアンケートを実施しています。左のQRコードを読み込むことで、携帯端末からもご回答いただけます。

QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。